

Hitoshi Suzuki
鈴木 斉



青森から九州、そして済州島まで。未知なるシーバスフィールドを探の旅を続ける。

北は青森県から西は九州の海まで！2012年はとにかく魚を追い求め、全国各地をひたすら走り回り、釣りに出掛けた年でした。日本には、まだまだメディアに紹介されていない素晴らしいシーバスフィールドがたくさん存在しており、そんなご当地では地元アングラーの皆さんと楽しく釣りができ、また大変お世話になりました。

特に印象に残っているフィールドは、青森県十三湖と鳥根県安道湖のシーバス。この二つの湖は、私の地元茨城県酒沼と同じ汽水湖で、湖全体が遠浅でウェーディングでシーバスが楽しめます。メインベイトは鱈の子で、ルアーへの反応も良く、デイゲームオンリーでも安定した釣果が出る素晴らしいフィールドなんです！とにかく自然が豊かでロケーションもよく、シーバスがスレていない！まだ日本には、そんな夢みtainなフィールドが存在していることに驚きました。

昨年テレビ撮影をした時にも、気持ち良く釣りを楽しみながら撮影ができました。これもロークアルアングラーや釣具店のみならず、サポートのお陰です。ロークアルでは当たり前釣りの場でも、全国レベルになると全く知られていないことも珍しくありません。昨年の私の釣りは、全国の知られざる穴場的シーバスフィールドを探しながら、全国に紹介していくことだった様な気がします。

私の探究心は日本国内に留まらず、韓国済州島にもシーバスを求めて行って来ました。韓国のシーバススレていないというイメージで出掛けま

したが、意外なほど韓国でもシーバスフィッシングの人气が高まってきており、一周約3kmの小さな離島にも関わらず週末になると多くのアングラーが訪れていました。事前情報が少ないながらの釣行で四苦八苦していた際に、訪れた加波島の食堂で発見した一枚の写真に驚かされました。明らかに90cmを超えるヒラスズキの口元には、なんとi-massanuke-200裂波がぶら下がっていたからです！

店内をよく見るとシーバスの写真が至る所に！しかもトップウオーター i-massanuke での釣果写真もありました。店の方と話を分かつたことは、まずはシーズン毎にマルズズキとヒラスズキ、狙うターゲットが変わること。島のポイントによって上げ潮が良いか下げ潮が良いかということ。シーズン（水温）でベイトが変わり、潮位のタイミングで魚がポイントを入り出すということだった。全くシーバスに対して未知なフィールドだと思いきや、日本と同じポイント開拓や狙い方などがパターン化されているのは正直驚きました。今やシーバスフィッシングは、日本に留まらず世界各地でポピュラーなゲームフィッシングになったのだと思つた瞬間でした。

2013年の今年も、私は全国各地を歩き回りながら、また紹介されていない未知なるシーバスの楽園を求めて、仕事にプライベートに釣りに出掛けようと思つていますので、現地でお会いした際には、皆さんぜひとも暖かく迎えて下さい！